

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>本校の歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を培い、個性を生かし社会に貢献できる若者の育成を目標とする。</p> <p>1 総合学科の特色を生かし「社会で求められる力」を育てる。</p> <p>2 地域貢献する活動をとおして、生徒の自己肯定感・有用感を育む。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 京都フロンティア校事業を活用し、「産業社会と人間」にて社会人交流会・職場体験を実施し、キャリア教育の充実に努めた。 生産科学系列・福祉系列では、先進校・施設を見学し、学びを深め、体験活動の充実を図ることができた。</p> <p>(2) インターハイにボランティアスタッフとして生徒が参加し、選手・役員並びに一般の方との関わりの中で、生徒の成長が確認できた。また、関係の方々から評価を受けることで、自己肯定感や自己有用感の育成につながった。</p> <p>(3) 地元のイベントやスポーツ大会のボランティア活動に参加し、改めて地域貢献する責務を自覚し、生徒が成長した。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 「挨拶をする」「思いやりの心を育む」など、基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>(2) 家庭での学習時間を増やし、進路目標の実現につなぐ。</p> <p>(3) 人権教育並びにユニバーサルデザイン授業の構築を図る。</p> <p>(4) 教科「産業社会と人間」を活用し、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>(5) 学習成果を発表する力を育む指導を充実させる。</p> <p>(6) 本校ならでは教育内容（施設も含む）を活用し、幼・小・中学校並びに他校と交流を深め、学習を深化させる。</p> <p>(7) 広報活動を検討し、校外へ情報発信や、中学生への情報発信方法を工夫して、本校の理解を深める。</p>	<p>1 高校生活の充実</p> <p>(1) 明るく生き生きとした高校生活をめざし、生徒の将来目標を早期に見出させ、目標達成に向けて取り組み、自己の可能性に挑戦していかうとする姿勢を養う。</p> <p>(2) 部活動加入率を向上させ、授業以外の体験を通して、高校生活の充実を図る。</p> <p>(3) 個々の生徒がボランティア活動に参加することで、自尊感情を育成し、高校生活の充実を図る。</p> <p>2 授業改善の推進</p> <p>(1) 基礎・基本を重視し、ユニバーサルデザイン化した授業展開を意識し、生徒の学力定着を図る。</p> <p>(2) 上級学校への進学を目指し、発展的な授業を展開する。</p> <p>(3) 実験・実習や体験活動を取り入れ、学習の充実を図る。</p> <p>(4) 生産科学系列や福祉系列では、地域や関係機関と連携することで、高度な技術を習得するのみならず、直接プロフェッションから学ぶことで、専門分野への視野を広げるとともに、人間性の育成を図る。</p> <p>(5) 各種資格取得に挑戦し、社会で活躍できる人材の育成につなげる。</p> <p>3 キャリア教育の推進、学校連携の推進</p> <p>(1) 産業社会と人間・総合的な学習の時間・LHRの計画的な指導により、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>(2) 地域創生推進校事業を活用し、体験活動や地域活動を通して、地域財産を活用し、地域に貢献する人材の育成を目指す。また、高校が、地域活性化を牽引する役割を担う存在となる。</p> <p>(3) 本校の情報を広く広報し、中学生並びに地域の理解を促し、生徒募集に努める。</p> <p>(4) 地元幼・小・中・高校間の連携を強化し、自己の可能性を認識し、人間性を高めようとする機会を設ける。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	生徒の自己肯定感の向上と、生きる力の基盤の育成	習熟度別講座・少人数講座の利点を生かし、基礎学力の充実に努める。	B	・部活動や地域におけるボランティア活動への積極的な参加が見られた。
		部活動への参加を促進する。	A	
		ボランティア活動への参加の拡大と活性化を図る。	A	
家庭・地域との連携	家庭・地域の信頼を深めるための取組の推進	家庭・保護者や関係機関との連携を密にし、学校と家庭・保護者の一致した協力体制による生徒の成長に努める。	A	・久美浜町内の保・幼・小・中学校並びに京丹後市内の関係機関と積極的に連携し、大きな教育効果を上げた。
		地元小中学校等への出前授業・体験授業の受け入れ、地域における様々なボランティア活動への参加を通して、自己有用感を育み、地域との連携をより深める。	A	
総務企画部	P T A 活動の活性化	本部役員・学級委員を中心に各種行事を盛り上げるとともに参加者の増加を図る。	A	・ホームページを一新した。内容の充実と更新回数増加により、アクセス数が増えた。 ・メール配信は、後半、配信回数が増加した。 ・外部図書館の一般公開等により地域との連携を深めた。
	広報活動の推進	ホームページの継続的な更新ができるように取り組む。学校行事等タイムリーな更新に心がける。 久美高だよりを月1回（毎月20日予定）発行し、学期に1回は新聞折り込みを行い、地元・地域に情報を発信する。また、学校情報メールも月末を中心に1回以上配信する。	B B	
	読書活動の推進	積極的な寄贈図書を受け入れや資料収集、公共図書館との連携により、多様な本の提供等、学校図書館の機能の充実に努めるとともに、様々な企画を通して学校図書館へ足を運ぶ機会や、本に親しむ機会を増やし、不読者の減少に努める。	A	
事務部	府民に信頼される学校事務の遂行と学校経営への積極的な参画	窓口業務を親切、さわやかに行う。	A	・会計実地検査及び監査では、正確で丁寧な会計事務が行われているとの評価を受けた。 ・産業廃棄物の処分を進め、校舎内外の美化に努めた。
		学校経営計画に基づき、各種事業の予算執行を早期に効果的に行う。	B	
	安心・安全な教育環境の整備	備品の整理を積極的に行うとともに、校舎内外の美化に努める。 日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。	A B	
教務部	授業規律の確立	生徒が落ち着いて授業を受けられる学習環境の整	B	・授業規律を乱す事象に

		備に努める。問題のある場合は、学年部、生徒指導部等の他分掌と連携して指導する。		については、学年部、生徒指導部と連携して指導を行った。 ・家庭学習時間の伸長が課題である。
	生徒の学習への取組姿勢の改善	各定期考査前に学習時間調査を実施するとともに結果の分析を行い、学習時間の増加につなげる。	B	
生徒指導部	すべての生徒が安心して学校生活を送ることができる環境の構築	基本的な人権を侵害する行為に対し、全教職員が毅然とした態度で指導する。 日常の生徒の状況をしっかりと観察し、アンケート調査等を活用して、問題の早期発見、早期指導に努める。	A	・毎朝の立ち番や巡回指導、毎週金曜日に行う「今週の振り返り」により、問題事象の未然防止、早期発見・指導ができた。 ・ボランティア活動を通じて、地域貢献をすることができた。 ・部活動への参加拡大が課題である。
	生徒の主体的な取組の促進	1年生全員の部活動への仮入部を実施するとともに、本入部をする生徒の増加に努める。 ----- ボランティア活動や地域との交流を増やし、生徒の自己肯定感・自己有用感を育む。	B ----- B	
進路指導部	希望進路実現に向けての個別指導の充実	生徒・保護者との面接・面談を充実させ、個に応じた適切な進路指導を行う。 ----- 入退室、言葉遣いなどのマナー指導を充実させる。	A ----- B	・3年生の進路実現に向けての3者面談を行うことができた。 ・マナー指導には一定の成果が見られるが、今後も継続する必要がある。
	キャリア教育を念頭に置いた計画的な進路指導の推進	他の分掌や教科との連携を図りながら、卒業後の生活も見据えた進路指導を行う。	B	
保健部	食生活を通しての基礎的生活習慣の確立	生徒の食生活（特に朝・昼食、清涼飲料水の摂取状況）の課題を見つけ、食生活を改善する調理方法の指導やキャンペーンを行う。	B	・食生活に関して、アンケートの実施とフィードバック、朝食改善プロジェクト等、保健委員会を中心とした対策プログラムを実施することができた。
	教育相談生徒に関する情報交流並びに教育相談会議の充実	生徒の状況について、教員間の情報交換を密に行い、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談を進める。	B	
人権教育	人権教育の構築	学年部、他分掌、福祉などの教科と連携して人権学習に取り組み、人権教育の構築を図る。 ----- 産業社会と人間、LHR、総合的な学習の時間等を活用した計画的な指導により、生徒の人権問題についての正しい理解や認識を深める。	B ----- B	・長期的な計画の下に、関係分掌・教科との連携を深め、人権教育の内容を充実させたい。
第1学年部	高校生としての生活習慣の確立と学習習慣の形成	保護者との連絡を密にし、遅刻・欠席の防止に努める。 ----- 学習環境を整えるため、教室内の環境整備に努める。 ----- 学習時間調査を有効に活用し、学習時間を向上さ	B ----- B ----- C	・家庭学習時間の確保など学習姿勢には課題が残されている。 ・進路学習は計画通り進めることができた。 ・遠方から通学する生徒も多く、部活動の定着が

		せる。		難しい。
		個々の課題を把握し、教科・分掌と連携し、生徒個々の能力を伸ばすための方策を考える。	B	
	職業意識の醸成と問題解決の力の養成	「産業社会と人間」の授業における取組を通して、職業についての理解をすすめ、課題を解決する力を養う。	B	
		一年生の部活動加入率を向上させる。	C	
第2学年部	自立・自律した生活習慣・学習習慣の確立	身だしなみ、挨拶励行、整理整頓の指導を通して基本的な生活習慣を確立させる。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の基礎となる力が身につくよう、長期的な指導が必要である。 ・資格取得については、全員資格取得は実現しなかったが、例年以上に検定合格者を出した。 ・修学旅行等の行事を通して、生徒が各々の個性を發揮して、全体に貢献する姿が見られた。
		定期考査前学習や模擬試験受験、各種検定試験受験への呼びかけ及び指導を行い、家庭学習の定着と学習時間の伸長をはかる。	B	
	自己肯定感・自己有用感の育成	教科・分掌・家庭との連携の下、生徒個々の状況を把握し、効果的な生徒指導並びに進路指導につなげる。	A	
	修学旅行、学校祭、生徒会活動などの行事を通して、生徒が自身の強みを生かして活躍できる場を提供するとともに、生徒が相互に協力し合い、各種行事を成功させるためのサポートを行う。	A		
	ボランティア活動への積極的参加を呼びかける。	B		
第3学年部	社会の一員としての自覚の促進と、社会的マナーや規範意識の確立	身だしなみ指導や挨拶の励行に努め、基本的な生活習慣を確立させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体として落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・進路実現について、家庭状況の変化による内定辞退が複数あり、より緊密な家庭との連携が必要である。
		授業規律や提出物指導等の指導を徹底する。	B	
	学力の充実による、生徒一人一人の進路の実現	家庭学習時間を可視化することで、学習習慣を確立させる。	C	
		総合的な学習の時間を活用し、個々の生徒の希望進路の実現に向けた計画と実践を促す。	A	
		資格取得の奨励を継続して行い、卒業後の進路に役立つよう指導する。	B	
農場部	農業関連諸機関や関連団体等、地域連携の推進	地元農家（本校OB）や農林行政機関、小・中学校、大学、JA等との連携を密にし、教育効果を上げるとともに地域に貢献する活動を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの行事を企画し、すべてを広報することができた。 ・ボランティア活動、校外実習等に積極的に取り
	広報活動の推進	ホームページをはじめ、各種広報紙への掲載、有	A	

		線放送等の広報活動を充実させ、農業教育の様子を積極的に情報発信する。		組んだ。
福祉部	体験活動の充実	地域の社会資源を活用した体験活動や学習の機会を増やす。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の見学や生徒による出前授業を実施した。 ・地域の福祉事業に参加した。 ・生徒用図書を追加・活用できた。
	学習環境の整備	備品の整理と教室掲示の工夫、参考図書の整備に努める。	B	
国語	基礎力の実現に向けた指導	進学講習や基礎学力補充を実施し、また問題集等を利用して家庭学習の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「夏休み読書感想文」を実施し、感想文集を発行した。 ・外部コンクール、新聞投書への応募ができた。 ・講習、補習の定着が課題である。
	言語活動の充実を図る取組の実施	外部コンクールへの参加を図る。 総務企画部と連携して読書活動の推進を図る。	A B	
地歴・公民	学習内容の精選による授業の展開	生徒の学力状況を把握した上で、他教科との連携も図りながら基礎・基本と発展的内容のバランスを考えた授業を展開する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する内容など、他教科との連携ができた。 ・地図、映像を効果的に用いて、理解を深めさせる教材開発・研究に努めた。
	生徒の興味関心を引き出す教材開発	視聴覚教材や実物教材、新聞などを利用した授業や自らテーマを設定して行う調べ学習などの研究・開発を推進する。	A	
数学	基礎的・基本的内容の確実な定着と不振者・不認定者の減少	生徒の実態に即した授業を展開し、基礎的・基本的な内容の定着を図り、作成問題を工夫し、やる気と達成感を持たせる。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の取組が数検等の参加につながっている。 ・校内数学グランプリを実施し、総合優秀及び講座奨励表彰を行った。 ・校内研修として研究授業週間を活用し、教科内授業参観を行った。
	学習への興味関心の喚起と達成感・成就感の高揚	視聴覚教材等を用い生徒の興味関心を引き出す授業を工夫するとともに、自信と達成感を持たせる授業を工夫する。 京都・天阪数学コンテスト、数学オリンピック(予選)、数学文化セミナー等への参加と数学検定の資格取得を推進する。	B B	
	指導法の研究・交流と教科全体の指導力の向上	校内研究授業週間の活用や教科内授業参観により授業改善及び問題作成力向上を図る。	A	
理科	授業に対する動機付け、興味付け、意識付けの充実	視聴覚教材やプレゼンテーションソフトを取り入れた授業展開を工夫する。 実験や実習方法の工夫と改善に努める。	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や視聴覚教材の導入により、一定の効果があつた。優れた教材の確保と精選が課題である。
	指導力の向上	公開授業を定期的実施し、指導方法の交流を図る。	B	
保健体育	心身についての理解の促進と	スポーツを通して達成感を体現させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な課題を設定し、

	生涯にわたる運動への親しみの態度の育成	計画的な研修を実施し、指導力の向上を図る。	B	達成感を持たせながら実施できた。 ・保健、体育の各授業で健康的な生活習慣について指導できた。 ・部活動への参加拡大が課題である。 ・施設、設備は計画的に改善されている。今後も日常点検を継続する。
		健康的生活習慣を確立させる。	B	
		部活動の活性化に配慮する。	B	
	授業や体育的行事における事故防止と安全教育の徹底	事故を防止する安全教育を徹底し、安全に対する行動力を身に付けさせる。	B	
		定期的に施設設備の安全点検を実施する。	B	
		事務部と連携し、施設設備の改善に取り組む。	B	
芸術	生涯にわたる芸術を愛好する心情の育成と自己肯定感を育む授業の展開	学校や地域の文化祭・文化に親しむ月間での作品展示をはじめ、様々な機会を活用し、達成感を味わえるような取組を推進する。 芸術に親しむだけでなく、技術の習得や知識の定着を図るため、個別指導と全体指導のバランスを考慮し、講義形式も取り入れるなど指導方法を工夫する。	A	・美術、書道では文化祭での展示を行うことができた。 ・音楽では授業内での発表を実施した。
英語	基礎・基本の指導の重視	生徒の実態に即した授業を展開し、基礎・基本を重視して学力の定着を図る。	B	・特に1年生を中心に取り組んできたが、学習意欲の向上と家庭学習の確立が課題である。 ・進学講習の出席率向上が課題である。 ・レシテーションについて、3年生の取組期間が短く、日程の調整が必要である。
	生徒の希望進路実現	進学講習を実施するなど、生徒の希望進路実現に向けて、実力をつける発展的な指導を行う。	B	
	レシテーショングランプリの成功	プレゼンテーションの経験を積ませる中で、課題や提出物にしっかりと取り組ませ、レシテーショングランプリの成功に向けた指導を充実させる。	A	
家庭	自分の生活の暮らし方について考えていく姿勢の育成	自立していくことを前提とした具体的な課題を取り上げ、自分で生活する立場から取り組ませる。	B	・将来と結び付けて、現在の生活を考える意識付けができた。 ・定期的なファイル提出など、提出物指導で一定の成果があった。
		課題、提出物を完全に提出させる。	B	
農業	魅力ある授業の展開	それぞれの科目の特性を丁寧に説明しながら、専門的な知識や技術の習得を図り、生産活動に臨む心構えを持たせ、社会人として通用する人材を育成する。	B	・座学と実習を関連づけるとともに、校外学習を積極的に行うなどして、先進的な知識や技術を習得させることができた。
	生産科学系列生の増加	1年次の「農業基礎」の学習を中心に農業の素晴らしさを積極的にPRし、次年度の生産科学系列生をさらに増やす。	B	

福祉	指導力の向上	公開授業の参観を積極的に行うとともに、合評会を充実させる。 ----- 学期ごとに学習会、夏季に現場研修を実施する。	B ----- A	<ul style="list-style-type: none"> 福祉科全教員が公開授業を行い、合評会を実施した。 新たに外部研修を導入した。 補充学習のタイムリーな実施が課題である。 「福祉・介護検定」に全員が挑戦、表彰対象生徒は1名である。
	学力の向上	成績不振者の補充学習時間を通年設定して指導を徹底する。 ----- 外部コンクールや検定に挑戦させるとともに成果を上げさせ、卒業時表彰に値する生徒を育てる。	B ----- B	
情報	情報や情報技術を効果的に活用する能力の育成	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本となる各ソフトの基本操作やコンピュータの適切な活用を身に付けさせる。 ----- さまざまな教材・機会を活用し、情報モラルやマナーの指導を行う。	A ----- B	<ul style="list-style-type: none"> 代表的なアプリケーションソフトの効果的な活用方法について、指導することができた。 情報モラルについては、視聴覚教材や新聞記事を活用し、具体的に指導することができた。
		----- コンピュータ室利用上の規約や提出物における締切日を守らせ、遅刻・無断欠席をさせない指導を徹底する。	B	

商業	ビジネスやコンピュータに関する基本的な知識や技術の習得	身近な例や実社会の例をできるだけ多く取り上げ、生徒の興味や学習意欲を高める。また、具体的なビジネスの場面を想定した内容を取り入れ、自分自身の実習態度を深める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標を明確に持たせることにより、検定受検意欲を引き出すことができた。 授業内容の充実と学年部等との連携により、資格取得を促進したい。
	資格取得による目的意識の高揚の推進	保護者も含めて、資格取得に関する連絡を周知徹底する。 ----- 検定1週間前には放課後の補習を行い、検定受検者の増加を図る。	A ----- C	

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した教育活動の展開が評価できる。丹後の強みに着目し、高校生のアイデアを活かしてほしい。 P T A活動など保護者との連携が評価できる。新入生の保護者が気軽に学校に来られるような工夫をお願いしたい。 今年度、重篤な事故は発生していないが、引き続き交通事故防止に重点的に取り組んでほしい。 久美高だよりをはじめとする広報活動はよく工夫されている。新聞掲載も増え学校の様子がよくわかる。中学生が適切に進路選択できるよう現在の取組を継続してほしい。
-------------------------	--

次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習活動を重視し、推進する。 対話的な指導に努め、理解を深めさせる。 地域との連携にあたって高校生の視点やアイデアを大切にし、研究活動を推進する。 新入生の部活動等への参加の拡大を図り、定着させる。 体験的な活動の内容を工夫し、自己肯定感と自己有用感を高める。
-------------------	--